

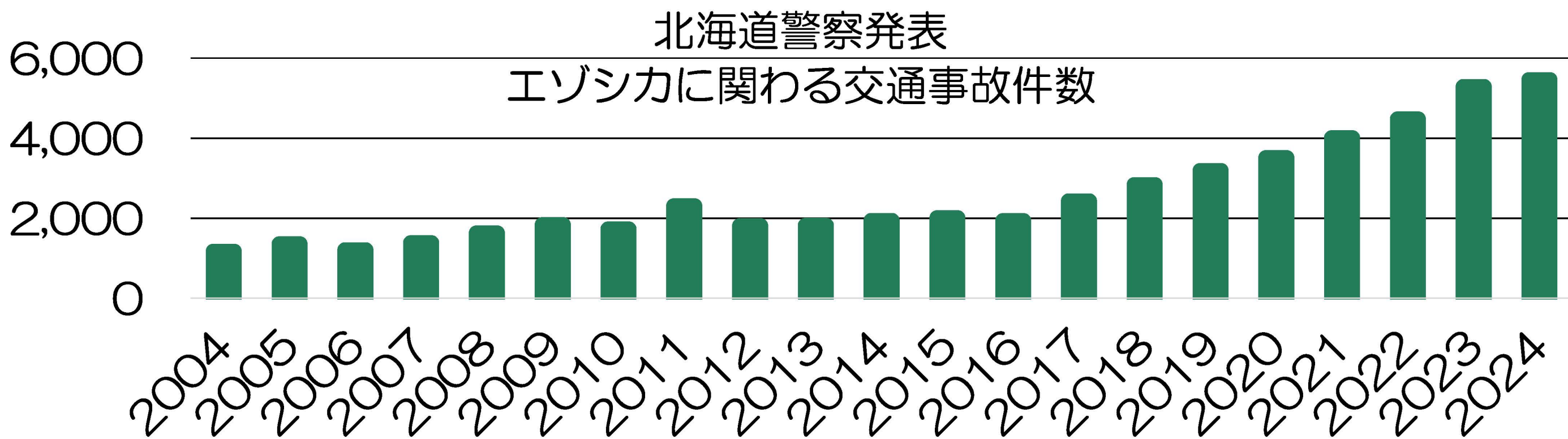
寒地における野生動物との軋轢

ー 運送事業者を対象としたロードキル実態調査 ー

背景と目的

【背景】

- 北海道では近年、エゾシカとの交通事故（ロードキル）が年々増加しており、2024年には過去最多となる5,460件が報告されており、交通課題のひとつとなっている。
- 様々な対策が講じられているものの、件数は増加傾向にあり、ドライバー側の対策も近年重要視されている。

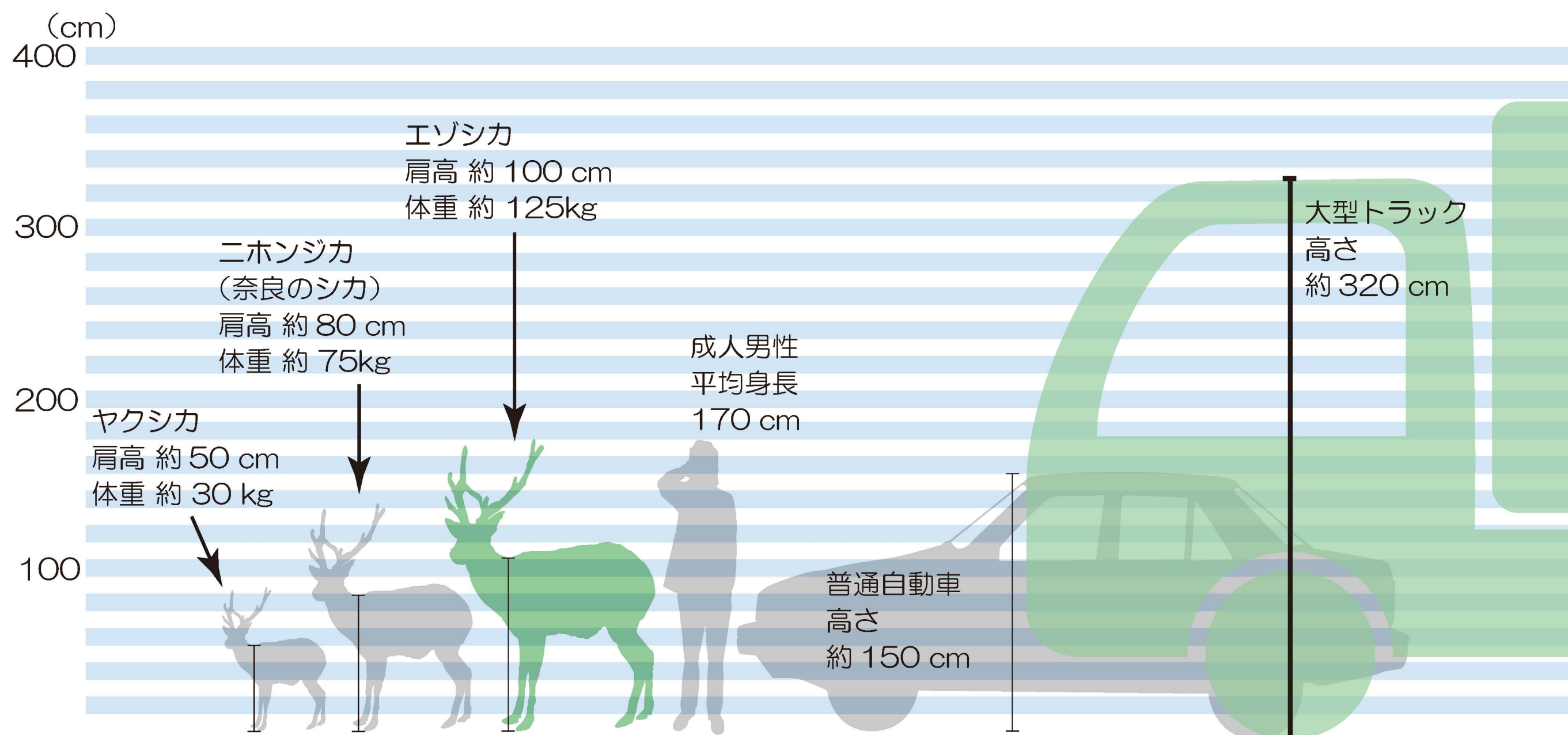


【目的】

- 道路利用頻度の高い運送事業者を対象に事故の実態を明らかにして、今後の故防止策の検討に役立てる。

エゾシカについて

- 野生動物のうち哺乳類などの恒温動物は、寒冷地ほど体のサイズが大きくなることが知られている（ベルクマンの法則）。
- ニホンシカは、日本全国に生息する種であるが、北海道には最大の亜種となるエゾシカが生息。



調査方法

- アンケート調査とし、各社にアンケート票を郵送し、郵送およびFAXで回収した。
- 調査対象
北海道内に本社がある運送事業者
法人規模：道路貨物運送業者
従業員 10名以上
売上高上位 1,200社
- アンケート項目を以下に示す。

- Q1：2020～2024年の5カ年間の事故事例
- Q2：5年前と比べたエゾシカとの事故事例の変化
- Q3：事故対策の有無
- Q4：対策効果の有無
- Q5：エゾシカとの事故増加傾向の認知度
- Q6：当社が公開する北海道エゾシカロードキルマップの事故防止への有効性評価



当センターが公開する
北海道エゾシカロードキルマップ

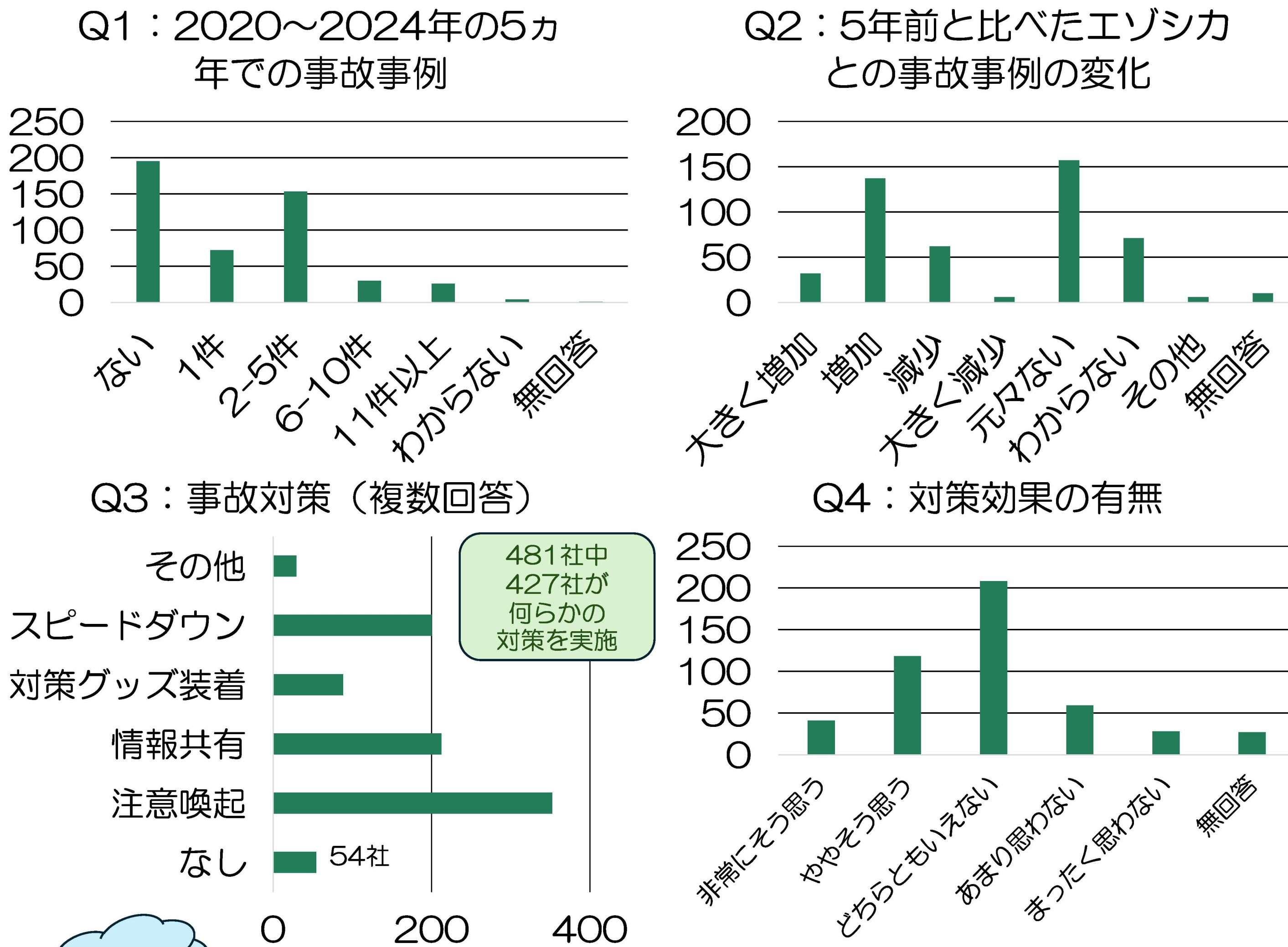
<https://www.wildlife-traffic.jp/roadkill>

調査結果

【有効回答数・回答率】

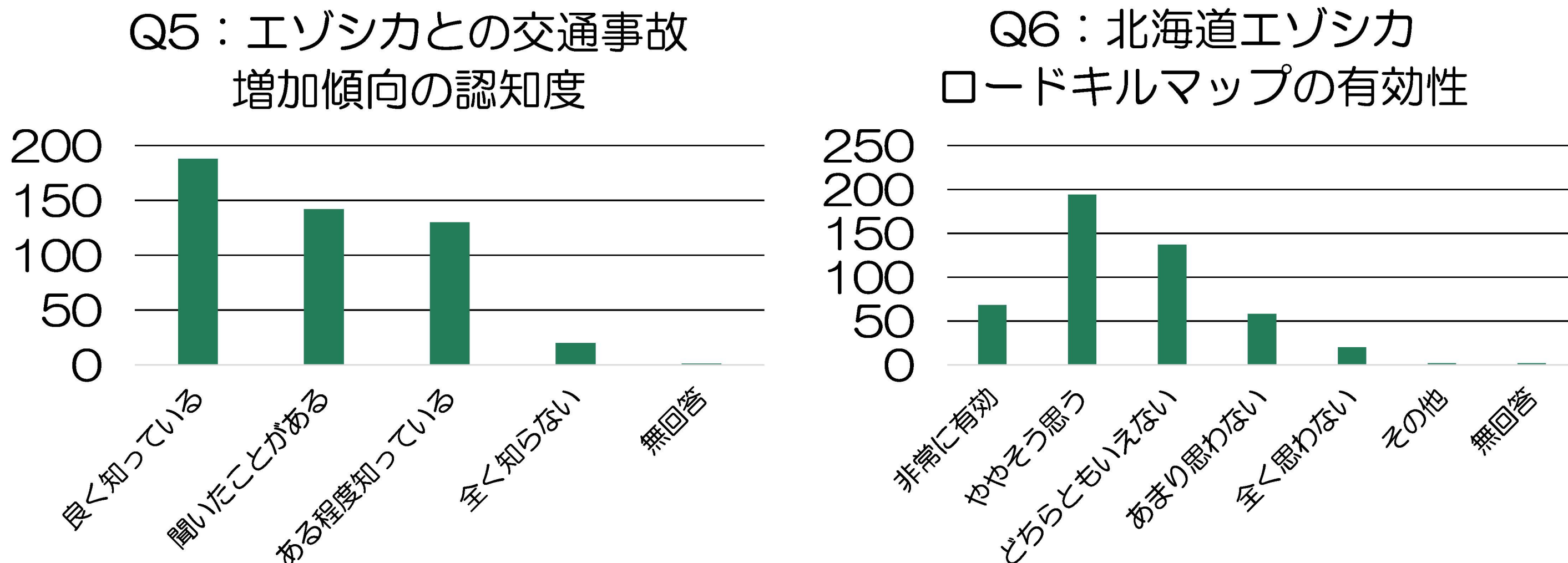
- 回答件数：481件 回答率：40.1%

【基礎集計 (N=481)】



Q3 その他意見

- ハイビームを使用 (こまめに切り替えなど)
- フォグランプの追加、ライトの光量アップ
- 高速道路を利用する
- シカが少ない路線を選んで運行
- 危ない場所やシカの生息地ごとの性格把握
- 社内研修の実施 など



【対策の有無と事故事例の関係】

- 100%
50%
0%
-
- | 対策 | 件数 |
|------|-----|
| 対策なし | 100 |
| 対策あり | 100 |
- Pearson の χ^2 検定の結果、対策ありの方が事故事例が多い、有意な関連を認めた。
 - この結果は、事故事例の多い企業で対策導入が進んでいることを反映している可能性が高く、本調査のみでは、対策の因果効果を断定できない。

まとめ

- 回答率は約40%、何らかの事故対策をしている企業が約90%で本課題への関心の高さが示唆された。
- 北海道エゾシカロードキルマップは「有効」との回答が多数であったことから、さらなる活用方法（周知・注意喚起）の検討を進める。
- 調査結果の更なる分析を進め、事故防止対策の検討に活かしたい。

【参考】ロードキルマップアクセス数推移

- ロードキルマップは2024年12月から公開。
- 2025年5月29日より、アクセス数を取得。
- ほぼ毎日アクセスされており、5カ月で約2,000件。

